「フェアプレーニュース」のダウンロードはこちらから

JSPO フェアプレー★ニュース

FAIR PLAY NEWS Vol.167

2025年6月30日発行

トップアスリートに聞く！

感謝を胸に、さらなる高みへ

両親からのことばを胸に感謝の気持ちを持ちつつ練習に励む

写真：YUTAKA／アフロスポーツ

5月に行なわれた日本選手権の日本代表エキシビションでソロの演技をする比嘉選手

小学校3年生のときにアーティスティックスイミング（音楽に合わせてプールの中で演技を行い、技や演技構成、芸術性や表現力を競う種目）を始めた比嘉選手。「練習すればするほど技が身につき、前の日にできなかったことができるようになるのがすごく楽しくて、どんどん『頑張ろう』と思うようになり、練習に励みました。

その後、5、6年生のときに全国大会で優勝。中学校2年生で日本代表入りすると、高校2年生のときにはパリ2024オリンピックに出場。チームで5位、デュエットで8位をマークしました。

小さいころから活躍している比嘉選手。元プロ野球選手の父からは「天狗になるな。応援される選手になりなさい」、母からは「今の環境にしっかり感謝して、競技に取り組みなさい」と言われてきました。

比嘉選手自身も『あいさつをしっかりしよう』『日本代表や中国代表などのコーチの実績もある井村雅代コーチに指導してもらえること、スポンサーさんに支援してもらえることは当たり前じゃない。感謝の気持ちを忘れず気を引き締めていこう』と心がけているそうです。

円陣で叫ぶ「ガンバッ!!」が不安を吹き飛ばしてくれる

たくさん練習している比嘉選手でも、試合での失敗を想像して不安になってしまうこともあるそうです。それでも、コーチや選手を含めたチームメートのみんなで円陣を組んで叫ぶ「ガンバッ!!」という掛け声が、不安を吹き飛ばしてくれると言います。

「ふだんの練習ではやらないからこそ特別感があり、より気持ちが熱くなります。『仲間を信じて演技しよう』という思いが高まります」

スポーツをしていると楽しいことばかりではありません。比嘉選手は「しんどいこともあるからこそ、達成感を味わえるのです」と言います。そんな比嘉選手が目標としているのはロサンゼルス2028オリンピックでメダルを取ること。「見ている人に『こんな選手になりたい』と思ってもらえるような演技をしたい」と、きょうもプールで汗を流しています。

フェアプレー7カ条

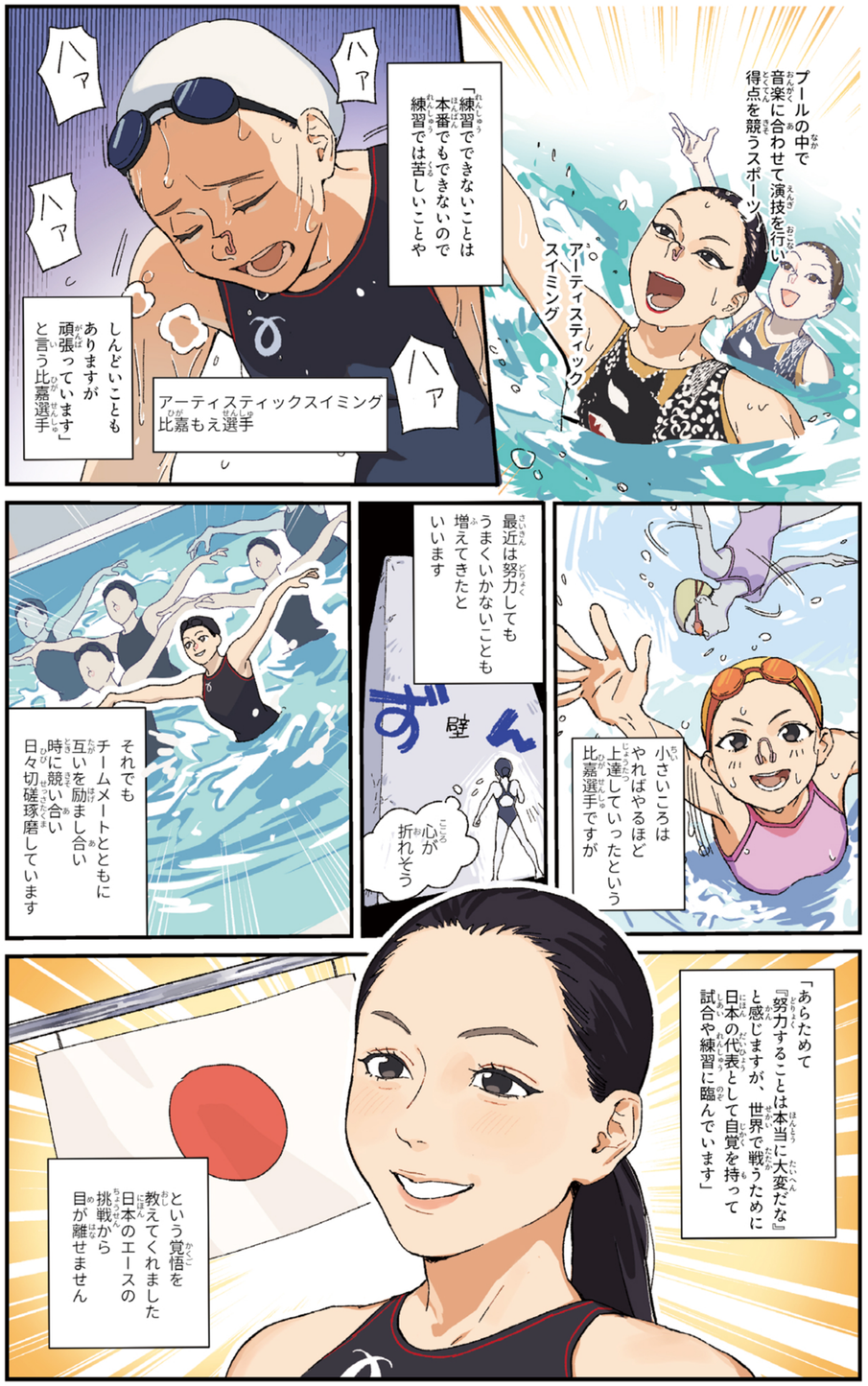
1. 約束を守ろう
2. 感謝しよう
3. 全力をつくそう
4. 挑戦しよう
5. 仲間を信じよう
6. 思いやりを持とう
7. 楽しもう

フェアプレーストーリー

努力を続けることが大事

水泳 アーティスティックスイミング

比嘉もえ選手



フェアプレーニュースとフェアプレー宣言はJSPOのキャンペーンホームページでチェック！

日本スポーツ協会 検索

フェアプレーキャンペーンTOPページ ➡ フェアプレーニュース で見たいニュースを見つけてね

➡ フェアプレー宣言 「宣言する」をクリックしてね

スポーツくじ WINNER toto BIG

フェアプレーニュース　第167号

2025年6月30日発行（次回は2025年9月16日発行予定です）

フェアプレーニュースは、スポーツ振興くじの助成を受けて制作・配送をしています。

企画：JSPO（公益財団法人日本スポーツ協会）　https://www.japan-sports.or.jp/

JSPO Japan Sport Association